

活動報告：ぶんぶんクラブ

1. 「ぶんぶんクラブ」のねらい

様々な子育て支援の方法や施策が考えられ、新しい制度の施行整備や各地域での推進が行われる中で、地域や保護者のニーズも広がりを見せている。そのような現状にある中で、地域に根差した大学として子育て支援に貢献できる具体的な実践のひとつが「ぶんぶんクラブ」の活動である。

本学で取り組む「ぶんぶんクラブ」は、学芸学部子ども学科が新設された当初より、広島市安佐南区長束地域を中心に、そこに居住する児童とそこに学ぶ学生が日常的に触れ合うことを目的として活動している。主な対象は、幼稚園児や児童である。幼稚園児とは主に園行事に参加して表現活動を発表することで相互が新しい刺激を受け合い、日頃は出来ない貴重な体験の場となっている。児童には、学校時間外の夕方や休日にも充実した生活が提供される機会となっている。大学生にとっては、幼稚園児や児童と接することにより子どものリアリティを体験できる貴重な機会となっている。また、大学生が幼稚園や児童館に出かけていくことで、地域に開かれ地域を大切にす大学であることをアピールすることができ、地域との連携がより深まると考える。

2. 「ぶんぶんクラブ」の2017年度活動状況

「ぶんぶんクラブ」の活動は、ボランティア学生とりわけレクリエーション・ボランティア研究会のメンバーを中心に、地域の幼稚園や児童館公民館などとの交流活動を展開している。一年間の主な活動状況は以下のとおりである。

- ・児童館との交流：年間不定期に数回（宿題指導、遊び、卓球指導、一輪車指導など）
- ・幼稚園との交流：年間不定期に数回（保育補助、遊びなど）
- ・幼稚園・児童館・公民館などでの出前劇（七夕やクリスマスなど）

昨年度に引き続き本年度も、幼稚園、児童館での交流活動日時と授業の時間帯との調整が難しく、日常的な交流は実施が困難であったが、年間の主な行事（七夕会、節分の会、児童館祭り等）には、必ず参加するように努力しながら活動した。

次からは主な活動の一部を紹介する。

(1) 幼稚園での出前劇実践例

七夕会

7月7日（金）広島市立長束幼稚園
 たなばたについてのお話 …… 園長
 自分のねがいごと …… 5歳児から
 4歳児はお当番
 学生のねがいごと …… 参加学生
 大型紙芝居
 「ななちゃんのたなばた」 …… 学生
 子ども学科3年2名、2年1名
 たなばたの笹飾り前での写真撮影

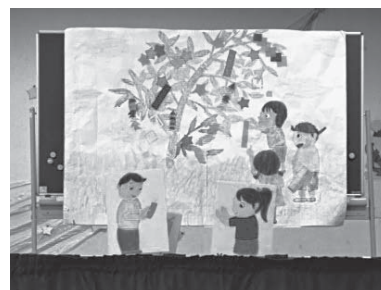
当日に向けて学生たちは少人数ながら導入に使用するペープサート作りや大型紙芝居製作に取り組んでいた。実際に子どもの前に立つと緊張する姿も見られたが、子どもたちの学生を見つめる目やかわいい反応に次第に緊張が緩いでいった。

終わりに子どもたちから「おもしろかった。」「ななちゃんがかわいかったね。」「今度はいつ来るの？」等の言葉をかけられ、子どもの純粋さに直接触れることができたり充実感を味わったりと貴重な体験となった。



初めはちょっと緊張しましたが、次第に笑顔が見られるようになりました。

学生の創作した手作り紙芝居です。ペープサートも効果的に使用されています。



わずか3人での実演なので、舞台裏は、大忙し！

節分の集い

2月2日（金）広島市立長束幼稚園
 節分についてのお話……………園長
 鬼の登場……………3年男子3名
 豆まき
 福の神の登場……………3年女子1名

ぶんぶんクラブの学生が授業の都合で出席できなかったが、子ども学科の学生4名が急遽引き受けてくれたので、予定通り節分の集いに参加することができた。子どもたちは、突然の鬼の登場にびっくりしていたが園の先生方が演じる鬼ではないということを感じて更に臨場感が高まり必死に豆を投げる姿が見られた。しかし、優しい福の神の登場で心が落ち着き、園児も学生も日本古来の伝承行事らしい雰囲気を味わうことができた。「園児が鬼を見て泣き出した時はどうしようかと思った。」「どこまで鬼らしく動いてよいのか迷ったが楽しかった。」等、子どもの反応を直接見たことで子ども理解にもつながったようだった。



予期せぬ鬼の登場に驚く園児

福の神の登場に園児もほっと一息。園長先生にリードいただきながら無事大切な役目を果たしました。



（3）児童館祭り

11月11日（土）13：30～15：30長束西小児童館
 「ワールドチャレンジinながつかにし」
 遊びコーナーを担当
 「お手玉ピラミッド」「童話パズル」担当
 準備・片付けの手伝い

児童館祭りには毎年参加しているので、児童館の職員の方からも大変頼りにされていて、学生が参加する意義が強く感じられた。また、地域の子

どもたちだけでなく保護者や高齢者の方ともコミュニケーションを図る機会となっており、地域交流の目的が達成できる活動である。



優しく接してくれる学生に保護者の方も思わず笑顔がこぼれます。

大人気だった「童話パズル」少し難しかったので、途中でルール変更をしました。



子どもたちへの直接的な支援が「先生」をめざす学生にとってはとても貴重な体験となります。

この他にも、「クリスマス会」「卓球大会」「お茶会」等の行事に参加し、子どもたちとの交流を図ることは大変意義深い経験となった。子どもを対象とした色々な行事の企画運営を学ぶことは学生にとって大学ではできない経験であり、将来に役立つと考える。

3. 今後の課題と将来構想

今年度の活動を振り返ると、学生にとって大変充実した経験となったことが伺える。また、地域の中で「文化学園の学生さんが協力してくれる。」という期待と安心感が定着していることも感じられた。

今後の課題については、「ぶんぶんクラブ」の活動の母体となる「レクレーション・ボランティア研究会」の人員減少である。昨今の学生事情からなかなか入部する学生がいないことが大きな課題となっている。そのため、将来構想としては「ぶんぶんクラブ」の活動の広報の方法を工夫し、ここでの活動が自分自身にも地域にも役立つということを理解させていきたいと考える。

（文責：学芸学部 子ども学科 合原 晶子）